

武田良介参院議員、梶田すすむ武豊町議らが中電武豊火力発電所視察 温室効果ガス排出増加、大気汚染もたらす石炭火発やめよ

リプレースと呼べるのか

武田良介参院議員ら国会議員団は、13日、中部電力武豊火力発電所に立ち入り、同発電所がこれまでの石油を燃料とする火力発電から石炭を燃料とする火力発電への発電設備リプレース（交換や更新の意味）計画について視察しました。

中部電力武豊火力発電所では、石油を燃料に火力発電をしてきましたが、今度、さらに海を埋め立て、石炭による火力発電所の建設を計画。現在環境アセスメントの手続き中です。

安倍政権は、2014年に閣議決定した「エネルギー基本計画」で石炭を原発と並んで「重要なベースロード電源」と位置づけ、石炭火力発電所の建設を全国で推進しています。

中部電力は、新規建設ではなく、最新型の環境影響の少ない石炭へのリプレースなのだと言明しますが、現在動いていないものを作ることをリプレースと呼べるのでしょうか。

温室ガス・環境負荷増大

石油やLNGより、二酸化炭素を大量に排出する石炭火力は、昨年のパリ協定で示された今世紀後半までに温室効果ガスの排出ゼロを目指す方向や国際的な脱炭素の流れに対する明らかな逆行です。

二酸化炭素は、200万トン増加すると、中電自身が認めています。しかし、中電は、石油や太陽、原発など、多彩な電源で安定供給を維持するとともに、経済的に考えて石炭が必要と説明。



中電武豊火力発電所の尾崎隆所長らと意見交換する武田参院議員、市田議員秘書、梶田武豊町議



これまで使われてきた石油火力発電の煙突撤去作業を視察する武田良介参院議員（中電武豊火発敷地内）

二酸化炭素の他にも大気汚染物質は多々あり、温排水による海水温上昇で、シヤコやあさり、海苔など自然環境破壊が心配されませんが、「影響は少ない」とも。漁業者の実感と違いがあります。



竹内恒夫名古屋大学教授、中部環境を考える会の宇佐美大司代表世話人などと懇談する梶田武田町議、武田参院議員等（名古屋市内）

専門家から疑問の声次々

武田氏らは、武豊火力発電所視察後に「中部の環境を考える会」の宇佐美大司代表世話人、竹内恒夫名古屋大学教授、中川武夫中京大学名誉教授らと懇談。

石油火力から石炭火力への移行にともなう環境への影響、懸念や環境アセスメントについて、次々と疑問の声が出されました。

「撤去工事のアセスをせず、建設工事のアセス文書が閲覧できなくなっている」「温排水の影響は少ないというが、すでに碧南石炭火力で海水温が3℃上昇」「太陽光発電を撤去して、新たに海を埋め立てて石炭火力とするのは脱炭素からの逆行で後退」「漁業への影響が心配。セントレアなどと合わせ、あちこちで開発が進んでいる。環境より経済優先で見過ごせない」など、様々な問題が指摘されました。

世界的な温暖化対策の問題でも、大気汚染と健康被害、海水汚染と漁業に与える影響など、問題点も課題も山積です。抜本的な見直しが求められます。

視察と懇談には、市田忠義参院議員秘書、塩川鉄也衆院議員秘書、梶田すすむ武豊町議も参加しました。